

序

リハビリテーションの対象となる患者はさまざまな疾患をもっており、複数の疾患の治療が並行して行われていることが多い。疾患の治療は外科的治療と内科的治療に大別されるが、内科的治療の主となるのは薬剤による治療である。薬剤には、疾患を治療する効果（益）がある反面、さまざまな副作用（害）も存在する。この副作用は合併症の誘因となる場合があり、安全にリハビリテーションを進めるためには薬剤の使用状況とその副作用に関する知識が必要となる。また、薬剤の副作用はリハビリテーションの阻害因子となる場合がある。リハビリテーションを効果的かつ効率的なものとするためには、阻害因子を把握し、その影響を最小限とするような対策をとり、影響に応じた適切なゴール設定をすることも求められる。さらに薬剤の使用状況から、疾患の治療方針や患者の全身状態をある程度把握することも可能となる。このように、リハビリテーション治療の計画や実施にあたっては、薬剤の知識は必須である。

しかし、リハビリテーションにおいて求められる薬剤の知識を網羅したテキストは多くはない。リハビリテーションの現場では、医師向けあるいは看護師向けのテキストや薬剤の添付文書などで情報収集していたものと考えられる。だが、それらはリハビリテーションに特化したものではなく、必要な情報にたどり着くためには多くの労力がかかるものであったであろう。

このような背景から、セラピストを主な対象とした薬剤の解説書として本書を作成することとした。内容としては、リハビリテーションにかかわる合併症や、リハビリテーションの阻害因子となるもの、またその影響に重点をおくこととした。難易度の高い薬理学に関する記述は最小限とし、極力シンプルな表現とするよう工夫をしている。また、Case Studyにおいて具体的な考え方と対応方法についても解説している。これらにより、薬剤に関する使える知識を整理することを目指している。

本書が安全で質の高いリハビリテーションの普及に貢献することができれば幸いである。

2019年8月

亀田総合病院リハビリテーション科
宮越浩一